

# 学力向上に効果のある取組事例

国東市立安岐小学校

## 取組の具体①「小学校教科担任制の推進」

### ■系統性を意識した指導

- ・6年生の授業では5年生の学習内容を意識しながら行い、5年生の授業では6年生の学習内容にどのようにつながっていくのかを意識しながら行った。
- ・5・6年生の系統だけでなく、下学年からの系統も意識して授業を行った。

### ■少人数での教科指導

- ・R3年度は5年生(38人)を2グループに分けて授業を行った。(国・算・理・社)
- ・本年度は5年生(40人)6年生(38人)をそれぞれ2グループに分けて授業を行っている。(国・算・理・社)

### ■子どもの戸惑い・困りの解消

- ・学習指導を充実させるために、子どもの困りや戸惑いを定期的に把握した。また、その解決策を高学年部で協議し、必要があれば改善していった。
- ・特に新年度のスタートにあたっては前年度までの子どもの困りや解決策を共有し、教科担任制がスタートする5年生が同じような戸惑いや困りを感じないように配慮した。(例:授業の始まりのあいさつの仕方をそろえる、宿題や持ち物などの子どもへの連絡方法をそろえるなど)

〈授業の内容は理解できていますか?〉

※小学校教科担任制に係る児童質問紙(R3年度)をもとに集計

	5年生		6年生	
	4月	10月	4月	10月
はい	64.5%	75.7%	67.5%	64.2%
どちらかといえばはい	27.6%	23.0%	30.0%	30.0%
どちらかといえばいいえ	5.9%	1.3%	2.5%	5.0%
いいえ	2.0%	0.0%	0.0%	0.8%

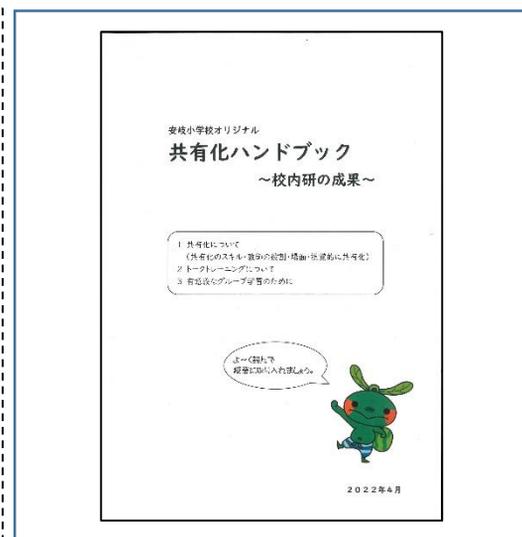
## 取組の具体②「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の適切な設定

### ■校内研究との関わり

- ・研究内容や授業展開(安岐小スタンダード)等を教職員で共有し実践した。
- (R3)共有化の質の向上と、そのふりかえりの充実
- (R4)ICTを効果的に活用した共有化・ふりかえりの充実
- ・「共有化ハンドブック」を作成し、これまでの研究の成果を年度当初に確認し、授業で活用した。
- ・指導案に振り返りの視点と期待したい子どもの反応を位置づけた。また、振り返りで子どもたちの共有化の様子を見取り、次の授業にいかすようにした。

### ■国東市授業改善の取組の重点を意識した授業実践

- ・子どもの解決意欲を促す課題を設定するようにした。特に、前時を振り返ったり、子どもに疑問を持たせたりしながら課題に対して自然に子どもの意識が向くように心がけた。



## 第 6 学年 1 組 A グループ 算数科学習指導案

指導者  
学習支援教員

1 単元名 円の面積

2 単元目標 円の面積について、その求め方や公式を考えたり説明したりすることを通して、円や円弧を含む複合図形の面積を求めることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①円の面積の求め方とその公式を理解し、公式を使って円の面積を求めたり、円弧を含む複合図形の面積を求めたりすることができる。	①円の求め方やその公式、また、円弧を含む複合図形の面積の求め方を考えることができる。	①見積もりや様々な捜査活動を通して、円の面積を既習の図形と関連付けて考えようとする。

4 単元の指導計画（全 9 時間）

時数	学習活動	評価規準			評価方法
		知	思	態	
1	正方形の面積を利用して、円のおおよその面積の見当をつける。	・①		・①	発言・行動観察 ノート分析
2	方眼を利用して、円のおよその面積を見積もる。	・①		○①	発言・行動観察 ノート分析
3	円の面積の求め方を考え、求積公式を導く。	○①			発言・行動観察 ノート分析
4	円の面積の公式を活用して、様々な面積や半径と面積の関係を考える。	○①		・①	発言・行動観察 ノート分析
5 本 時	円の面積の公式を活用して様々な問題解決する活動を通して、式変形するよさを味わう。	・①	○①		発言・行動観察 ノート分析
6	円弧を含む複合図形の面積の求め方を考える。	・①	・①		発言・行動観察 ノート分析
7	円弧を含む複合図形の面積の求め方を理解する。	○①	・①		行動観察 ノート分析
8	円の面積の単元の習熟に取り組む。	・①	・①	・①	発言・行動観察 ノート分析
9	単元テストに取り組む。	○①	○①	○①	発言・行動観察 ノート分析

5 本時案 (5/9)

(1) 題目

円の面積を求めよう

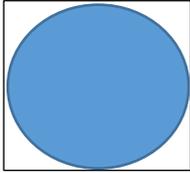
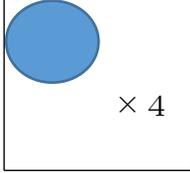
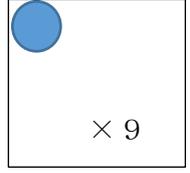
(2) 本時のねらい

同じ大きさの正方形に縦横同じ数ずつの円を敷き詰めた場合の面積について、それぞれの円の面積を求めて直接比較したり、式の共通部分を見つけて式変形したりすることにより、面積が等しくなる理由を説明することができるようにする。

(3) 評価規準 (概ね満足)

すべての求積の式が同じ式に変形できることに気づき、面積が等しくなる理由を説明している。【思・判・表】(発言・ノート)

(4) 展開

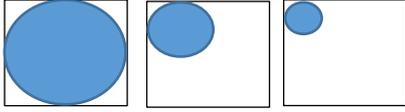
学習活動	時	指導および支援	個別の支援
【めあて】面積の大きいピザを注文しよう。			
<p>1. 本時の問題を知り、課題をつかむ。</p> <p>2. 自分の考えをもつ。</p> <p>3. 考えを交流する。</p>	5	<p>○本時のめあてを確認し、問題を提示する。 ・実物投影機と黒板を使って、問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>乗峯先生は、ピザが大好きです。お店に行って注文しようとしたら、3種類の大きさが用意されていました。一番大きい面積のピザを買いたと思います。面積が一番大きいピザはどれでしょう。みなさん教えてください。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>㉞</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>㉟</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>㊱</p>  </div> </div>	
	5	<p>○問題文を提示し、予想させる。<b>視覚化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・㉞㉟㊱のうちどれが一番大きいか予想を出し合う。</li> <li>・予想段階ですぐに計算できないように、まだ箱の一边は提示しない。</li> <li>・箱の一边の長さや半径が分かればわかるという意見が出てきたところで課題を提示する。<b>焦点化</b></li> </ul>	
【課題】箱の中のピザの面積は、どれが一番大きいのかな。			
	15	<p>○一边の長さは60cmであることを提示する。</p> <p>○円の面積の公式を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・板書内容と同じピザの図を配布する。</li> <li>・㉞を板書し、箱の一边の長さ60cmを記入する。<b>視覚化</b></li> <li>・半径を見つけられない児童もいることが予想されるので、一边の長さから半径が何cmになるかを確認し、全体で共有する。<b>共有化</b></li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(目的) ㉞を求積するために、一边の長さど半径を確認し合う。</p> </div> <p>○㉞自分の考えをノートに書かせる。 <math>30 \times 30 \times 3.14 = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <p>○㉟自分の考えをノートに書かせる。 <math>15 \times 15 \times 3.14 \times 4 = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・解き進めるうちに、㉞も㉟も同じ面積になることに気づくと予想されるので、㉞と㉟の面積を、全体で共有する。</li> <li>・㉞㉟が同じであれば㊱も同じになるだろうと予想する児童が出てきたら、グループで㊱の面積を求めさせ、すべてが同じ面積になることを確認する。 <math>10 \times 10 \times 3.14 \times 9 = 2826 \text{ cm}^2</math></li> </ul>	<p>G 児、O 児は、一边の長さが提示されても半径を見つけることができないことが予想されるので、配布された図に60cmを記入させる。掲示物を見て、半径は直径の半分になることを思い出させ半径30cmを書かせる (T1・T2)</p>
	10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【深める課題】同じ大きさになるのはなぜ？</p> </div> <p>㉞ <math>30 \times 30 \times 3.14 = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <p>㉟ <math>15 \times 15 \times 3.14 \times 4 = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <p>㊱ <math>10 \times 10 \times 3.14 \times 9 = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <p>なぜ同じ面積になるのか、視点を与えて班で考えさせる。<b>共有化</b></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>(目的) ㉞と比較し、式変形をすれば計算することなく解答を導くことができることに気づかせる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・㉞と㉟を比較させ、㉟は小さい円を4倍することになることを確認する。この4倍を<math>2 \times 2</math>と見ることで、式変形で㉟が㉞と同じ式になることに気づかせる。</li> <li>・同様の見方を㊱にも適用させ、㉞㉟㊱が同じ式になることを確認する。</li> </ul> <p>㉞ <math>30 \times 30 \times 3.14 = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <p>㉟ <math>15 \times 15 \times 3.14 \times (2 \times 2) = 2826 \text{ cm}^2</math></p> <p>㊱ <math>10 \times 10 \times 3.14 \times (3 \times 3) = 2826 \text{ cm}^2</math></p>	<p>G 児・O 児は<math>\times 4</math>と<math>(2 \times 2)</math>が同じことであることには気づくが、それが半径にかかることへの理解に時間を要すると思うので、班活動の中に入って声かけし、式の中の15cmと2を結んで30cmになることを視覚的に支援する。(T1・T2)</p>

<p>4. 本時のまとめをする。</p>	<p>5</p>	<p>・理解が定着しない場合は、3.14を除いた部分に注目して考えさせる。</p> <p>① <math>15 \times 2 \times 15 \times 2 = 900</math></p> <p>② <math>10 \times 3 \times 10 \times 3 = 900</math></p> <p>○本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【まとめ】</b> 箱の中のピザの面積は、すべて等しい。 同じ箱の中にある大きさの異なる円の面積は、大きさに関係なく等しく、式を変形すれば、計算なしでも解くことができる。</p> </div>	
<p>5. 本時のふりかえりをする。</p>	<p>5</p>	<p>○本時のふりかえりをする。</p> <p>・書いたふりかえりを【実物投影機】で数名分提示し、共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【ふりかえり】</b> ①はじめは、絶対③が大きいと思っていたけど、計算したり、友だちと話したりしたら、面積がすべて等しいということが分かりました。 ②同じ箱の中であれば、円の面積は等しくなることや式変形をすれば、計算せずに大きさがわかることがわかりました。このような問題が出たら、今日の考えを使いたい。</p> </div>	

(5) 板書計画

**【めあて】** 円の面積の公式を使って考えよう

③
①
②



乗峯先生は、ピザが大好きです。お店に行って注文しようとしたら、3種類の大きさが用意されていました。一番大きい面積のピザを買いしたいと思います。面積が一番大きいピザはどれでしょう。

③が一番大きいと思う。

①が一番大きいと思う。

実は②が一番大きいかも。

計算したらできそう。円の面積の公式を使えば比べられそう。

**【課題】** どのピザの面積が一番大きいか。

円の面積 = 半径 × 半径 × 3.14

必要な情報は？  
一辺の長さは 60 cm。

③  $30 \times 30 \times 3.14 = 2826 \text{ cm}^2$

①  $5 \times 15 \times 3.14 \times 4 = 2826 \text{ cm}^2$

②  $0 \times 10 \times 3.14 \times 9 = 2826 \text{ cm}^2$

全て同じ大きさになる。

**【深める課題】** 同じ大きさになるのはなぜ？

③  $30 \times 30 \times 3.14 = 2826 \text{ cm}^2$

①  $15 \times 15 \times 3.14 \times (2 \times 2) = 2826 \text{ cm}^2$

②  $0 \times 10 \times 3.14 \times (3 \times 3) = 2826 \text{ cm}^2$

**【まとめ】**  
箱の中のピザの大きさは、すべて等しい。  
同じ箱の中にある大きさの異なる円の面積は、大きさに関係なく等しく、式を変形すれば、計算なしでも解くことができる。

**【ふりかえり】**

## 第5学年Bグループ 国語科学習指導案

指導者（教科担任推進教員）

1. 単元名 「社会はくらしやすい方向に向かっているか」について、グラフや表を使って自分の意見をまとめて友達に伝えよう。

（「固有種が教えてくれること」・情報：統計資料の読み方・グラフや表を用いて書こう）

2. 本時案 （5 / 11）

(1) 題 目 筆者の資料の使い方を考えよう。

(2) ねらい 資料を使うことの効果を、文章と資料を対応させたり筆者の主張と結び付けて考えたりするを通して捉えることができるようにする。

(3) 評価規準（概ね満足）

資料を使うことの効果を捉えている。

【思考・判断・表現】（発言・ノート）

(4) 展 開

学習活動	時	指導および支援	個別の支援
子どもたちは「社会はくらしやすい方向に向かっているか」というテーマでグラフや表を用いて自分の意見をまとめることを単元全体のめあてとして持ち、意見文の書き方を知るために「筆者はどのような書き方で自分の考えを伝えているか」という目的で「固有種が教えてくれること」を読んでいる。前時までは文章構成を捉え、筆者の主張を読み取っている。そして、意見文を書く時には「初め」と「終わり」に自分の主張を書くことよを確認している。			
1. 本時のめあてを確認する。	3	○単元全体のめあてや本文には資料がたくさん使われていることを想起させ、本時のめあてを確認させる。  <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;"> <b>【めあて】</b> 資料の使い方を考えよう。                     </div>	
2. 本時の課題をつかむ。	10	○資料の数や資料が表していることを確認させ、子どもの意識が資料に向いたところで本時の課題を提示する。  <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;"> <b>【課題】</b> 資料を使うことの効果は何か。                     </div>	
		○資料があると分かりやすいと考える子どもがいることが予想されるので、資料1を取り上げ「資料は本文のどこを分かりやすくしているのか。」と問いかけ、資料と文章を対応させる。 ・デジタル教科書を使い、本文に線を引かせながら考えさせる。 ・子どもたちが分かりやすさに目が向いていない時や子どもからの発言がない時は、資料1を取り上げ、資料から読み取れることを確認させながら本文と対応させていく。 ・資料と本文を対応させた後、地図の部分を示し「この部分がなかったらどうか。」と問いかけることで分かりやすくするのではないかという考えを引き出す。  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">                         共有化                     </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin-left: 10px;">                         （目的）課題解決のための見通しをも持つ。                          （資料と本文を対応させながら考えることが課題解決の手掛かりになることを知る）                     </div>	・線が引けていない時は、資料から分かることを一緒に確認した後、そのことが、どの段落に書かれているかをさがすように助言する。

<p>3. 資料のよさについて考える。</p>	<p>27</p>	<p>○他の資料についても文章と対応させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味のある資料から読ませる。</li> <li>・誰がどの資料を読んでいるかが分かるようにネームプレートで板書に位置づける。</li> <li>・困った時や分からない時は、ネームプレートを見て友だちと話し合うようにする。</li> <li>・読み取った資料について友だちに伝える。</li> </ul> <p><b>ねらいにせまる共有化①</b></p> <p>(目的) 他の資料について文章と対応させたことを紹介し合うことで、資料は筆者が述べていることを分かりやすくしていることを実感する。</p> <p>○資料は筆者が述べていることを分かりやすくしていることを子どもたちが実感したところで「筆者はなぜこのように分かりやすくなるように書いているのか。」と問いかけ「伝えたいことに説得力をもたせるため」という考えを引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちから、説得力を持たせるという考えが出ない時は、「中」の役割や筆者の主張を想起させる。</li> </ul> <p><b>ねらいにせまる共有化②</b></p> <p>(目的) 友だちが発言したことをペアで確認したり、自分の言葉で言い換えたりすることで、資料は筆者の主張に説得力を持たせていることを理解する。</p> <p>○資料が筆者の主張に説得力を持たせることに気づいたところで本時のまとめをする。</p>	<p>・文章と対応させることができていない時はどの段落を説明するためにある資料なのかを一緒に確認したり、同じ資料を読んでいる友だちと一緒に考えるように促したりする。</p>
<p><b>【まとめ】</b>  資料を使うことの効果は、伝えたいことを分かりやすく示したり説得力を持たせたりすることである。</p>			
<p>4. 本時の学習を振り返る。</p>	<p>5</p>	<p>○国語日記（本時のふり返し）を書かせる。</p> <p><b>【ふり返し】</b></p> <p>視点①意見文に使う資料を選ぶ時にどんなことを考えて選ぶとよいか。</p> <p>視点②その理由。(今日の学習でどんなことが分かったからか)</p> <p>(例) 意見文を書く時は、自分の意見を読み手に説得できるような資料を選んで書きたいと思います。</p> <p>なぜなら、資料があると筆者の考えに対して「な</p>	<p>・何を書けばよいかわからない時は資料の効果を確認したり、「社会がくらしやすい方向に向かっているか」が分かりやすい資料とそうでない資料はどちらの方が意見文を書きやすいかを尋ねたりする。</p>